OSAKA UNIVERSITY
OF ECONOMICS AND LAW
大阪経済法科大学

LIBERA

volume
72
2008

特集

世界との連携が、未来を支える。

第5回東アジア学国際学術シンポジウムにて
(2008年9月21・22日開催、於 大阪国際交流センター)
写真右から、
国際教養大学　C.Kenneth Quinones 教授
ハワイ大学　Edward J.Shultz 教授
ロシア科学アカデミー東洋学研究所　Vorontsov Alexander 氏

特集

世界との連携が、未来を支える。

米国住宅バブルの崩壊に端を発し、米国証券大手、リーマンブラザースの経営破綻によって加速された金融危機が、世界経済を激震させています。本年7月に開催された洞爺湖サミット（主要国首脳会議）では、世界経済、温暖化防止、食料危機、アジアでの核開発問題など地球的危機が広く取り上げられましたが、その危機は一層深刻さを増しています。

大阪経済法科大学は、「建学の理念に基づいて、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究するとともに、豊かな人間性と国際感覚にあふれた独創的で実践力に富む人材を育成し、もって社会の発展と平和に貢献する」との大学の使命に基づき、北京大学・復旦大学・ハワイ大学・ロンドン大学・崇実大学校をはじめ世界38大学・研究機関と提携し、このような危機に向き合い、解決を模索する国際的なネットワークを形成してきました。今回の特集では、本年実施した東アジア学国際学術シンポジウムと日中韓三カ国姉妹校学生交流セミナーを取り上げ、本学の国際交流事業の意義と成果について紹介します。

大阪経済法科大学学報［リベラ］
LIBERA
volume72/2008

2008年10月30日発行
【編集】
大阪経済法科大学事務局庶務課
〒581―8511
大阪府八尾市楽音寺6丁目10番
TEL072・941・8211
FAX072・941・4426

http://www.keiho-u.ac.jp/

［今月の表紙］
第5回東アジア学
国際学術シンポジウム基調講演を
傾聴する研究者

CONTENTS

3 特集
世界との連携が、未来を支える。
第5回東アジア学国際学術シンポジウム
「21世紀の東アジア―平和・安定・共生―」
第2回日中韓三カ国姉妹校学生交流セミナー

9 ［スチューデントパワー student power］
囲碁部1部昇格
八尾市吹奏楽フェスティバル、文化博覧会
2008年度 各種資格・検定試験合格者　他

11 ［経法タイムス］
2008年度 春学期末卒業式、大阪中学生サマー・セミナー
八尾市民無料法律相談、地域IT講習会　他

14 2007年度 大学決算・事業報告

17 教育後援会・校友会だより

19 ［国際交流通信］
ハワイ大学マノア校との交流拡大、
海外フィールドスタディー　他

21 ［キャリアアップステーション］
就職展望、2008年度就職内定状況
インターンシップ報告　他

24 ［元気いっぱい! 躍動する経法生］
岡本 香菜子さん（法学部・4年生）

第5回東アジア学国際学術シンポジウム

「21世紀の東アジア―平和・安定・共生―」を開催

世界人口の3分の1を擁し、近年めざましい経済発展を遂げる東アジアに、世界の注目が集まるようになって久しい。

この発展を今後も持続可能なものとするため、東アジア地域の研究を主導する国際的学術ネットワークの形成をめざして、9月21日(日)・22日(月)の二日間にわたって第5回東アジア学国際学術シンポジウム「21世紀の東アジア―平和・安定・共生―」(主催=本学アジア研究所、北京大学東亜学研究センター、協賛=ベトナム社会科学院北東アジア研究所、タイ・チェラロンコン大学アジア研究所、後援=外務省、朝日新聞社、大阪府、大阪市、八尾市、国連大学)を、13カ国から50名以上の研究者を迎えて、大阪市上本町にある大阪国際交流センターにて開催した。

このシンポジウムは一般にも公開され、両日とも多数の市民が参加し、有意義な研究発表及び議論が展開された。

藤本和貴夫大阪経済法科大学学長

「東アジア学国際学術シンポジウム」は、政治、経済、社会、文化など、さまざまな面で多様性に富む東アジア地域の姿を明らかにし、この地域のさらなる発展と、世界の平和と人々の共生の実現に資することを目指している。

2000年、第1回のシンポジウムでは「東アジア学研究の現状と課題」をテーマに北京大学で開催し、その後、東アジア各国の大学や研究機関との協力により、2年に1度、東アジアの異なる地域で開催してきた。

2002年、第2回「経済のグローバル化、地域化と東アジア」を引き続き北京大学で開催した後、2004年に第3回「アジアにおけるエスニックグループ、その調和と軋轢」をタイ・バンコク、チュラロンコン大学で、2006年には第4回「東アジア共同体に向けて―挑戦と展望―」をベトナム・ハノイ、ベトナム社会科学院で開催し、会議を重ねるごとに参加する国・地域が増し、多くの著名な研究者や若手の研究者も続々と参加して、規模が大きくなっている。

そして今回、第5回目は大阪での開催となり、このシンポジウムを最初に提案した本学の所在地、大阪への初めての里帰りとなった。

東アジアの未来に向けて、13カ国から研究者が結集

現在、東アジアにおける国際関係は、平和と安全保障をめぐる葛藤から、国際移住によって引き起こされる対立に至るまで、多くの不安定要因を抱えている。また、今年7月に開催された北海道洞爺湖サミットで環境問題が主要テーマとして取り上げられているように、地球環境の保全は、国や地域を越えた協力によってのみ達成される。

そこで今回のシンポジウムでは、このような現実に立脚した新しい東アジア像の提示に向けた積極的な議論の場とするため、「21世紀の東アジア―平和・安定・共生―」を総合的なテーマとした。

写真中央・郭定平　復旦大学教授

郝斌　北京大学東亜学研究センター所長

特集
世界との連携が、未来を支える。

基調講演

東アジアの地域統合の問題点と展望
―包括的なフレームワークを求めて―

マハニ・ザイナル・アビディン　マレーシア戦略国際問題研究所事務局長

9月21日開会式に引き続き、基調講演が、同志社大学教授・現代アジア研究センター長の阿部茂行氏、マレーシア戦略国際問題研究所(ISIS)事務局長のマハニ・ザイナル・アビディン氏(写真左)、ソウル大学教授であり、韓国・元外交通商部長官の尹永寛氏の3名の研究者によって行われた。

阿部茂行氏による「アジア経済統合のゆくえ―競合かそれとも補完か?」と題する講演では、アジア経済の一般的な問題点と全体像が描き出され、日本、ASEAN、中国と、牽引役を交代しながら、高い経済成長を持続させてきたことやアジアの経済的統合が加速化している点などが指摘された。

また、アジアが抱える問題点として、製品市場としてのアメリカ及び米ドルに大きく依存していることから、現在のアメリカの金融危機による影響が懸念されること、政治的障害として、アジア経済ではASEANが一定のリーダーシップを保っているものの方向性が明確でないこと、歴史的障害として中国、韓国、日本の間で軋轢があることなどが指摘された。

続いて、マハニ・ザイナル・アビディン氏により、「ASEAN統合の次の段階―サービス貿易の自由化」と題して、ASEAN自由貿易協定(AFTA)によって端緒が開かれたASEAN地域の経済統合の歴史と現状が解説された。

その主なものとして、サービスと投資の分野にまで経済統合を拡大させたASEANサービス枠組み協定(AFAS)及びASEAN投資地域(AIA)構想、そして、2015年までにASEANを単一市場と生産拠点とすることを目標に掲げる計画などが取り上げられた。

そして、真に統合した地域市場を実現するためにサービス部門の自由化の必要性が強調された。

最後に、尹永寛氏が「朝鮮半島と北東アジアの安全保障秩序」と題して、最近の北朝鮮の核外交の展開と北東アジアにおける多国間の安全保障協力の可能性について、国際関係における3つの異なる立場(新保守主義、現実主義、機能主義)の観点から論じた。

分科会

東アジアの経済、政策、環境問題、人的交流など、「平和・安定・共生」を支える条件を多角的に討議

「平和と安全保障」、「持続可能な経済発展と環境保全」、「国際移住と共生社会」を個別のテーマとした3つの分科会において、東アジアの政治・経済・環境問題の解決と、東アジアにおける新しい地域共同体形成をめぐって、2日間にわたって幅広く議論し、国境を越えて共に生きる新しい世界像・時代像にアプローチした。

今回のシンポジウムについて、華立実行委員長(本学アジア研究所長)は、各分科会でのレベルの高い数多くの発表と、活発な討議を通じて東アジアの地域統合のあるべき姿とその展望について大きな成果が得られたこと、更に、アジアのみならず世界の学術と平和・繁栄へ寄与する契機となったと評価している。あわせて、次回第6回シンポジウムの開催地候補として、北東アジア、例えばロシアの極東地域という提案があり、今後具体的な協議を進めていくことが閉会式で明らかにされた。

特集
世界との連携が、未来を支える。

第2回日中韓三カ国姉妹校学生交流セミナー
三カ国学生が研究成果をプレゼンテーション、「持続可能な発展と環境問題」について多面的に考察

8月21日（木）から29日（金）までの9日間（ソウル8／21～8／25、大阪8／25～8／29）にわたって、本学と姉妹校である中国・復旦大学、韓国・崇実大学校との共催で、日中韓三カ国姉妹校学生交流セミナーを開催した。

この日中韓三カ国姉妹校学生交流セミナーは、本学と韓国・崇実大学校の2校で、1995年から毎年、日韓交互で開催されてきたセミナーを発展させたもので、地域住民との交流や日韓の学生同士が寝食を共にしながら学習・交流を行い、相互理解を深めることを目的として実施してきた。そして、昨年からは、本学協定校のひとつである中国・復旦大学を新たに加え、3校による共催となった。

2回目となる今年の三カ国姉妹校学生交流セミナーは、「地球の未来を語ろう―持続可能な発展と環境問題―」をテーマとし、3校からそれぞれ10名、計30名の学生が参加して行われた。「大学では学ぶことのできない視点から、現代の社会制度のあり方へのアプローチを試みる」という従来からの目的に沿って、世界規模で注目を集める環境問題について、ゲスト・スピーカーによる講演会を開催し、大阪・神戸・京都―三都市でのフィールドワークなどを実施した。

セミナーでは、基本的には英語を使用言語としつつ、本学学生は中国語・韓国語にも挑戦していた。

共に学び、議論した9日間

8月21日～25日までの韓国プログラムを終えた学生たちは、25日から本学を中心に行われた大阪プログラムに参加した。

25日のウェルカム・セレモニーの後、3校の学生たちは、26日午前9時から本学アジア太平洋研究センター所長・武者小路公秀教授から基調講演「Sustainable Development From (Old) Generation to (New) Generation, In China, Korea, and Japan（持続可能な発展―世代から世代へ、中国・韓国・日本―）」を受けた。

同日午後からは、「災害と復興」をテーマに、大震災から目覚しい復興を遂げた神戸の街でフィールドワークを行い、「阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター」などを見学した。さらに同日夜には、韓国・中国の参加者が本学学生の家庭にホームステイし、親交を深めた。

各国の環境問題解決に向けた活発な議論を展開

27日は、フィールドワークとして京都の金閣寺・嵐山・八坂神社・清水寺などをめぐり、本学の学生が日本の文化・歴史などを紹介した。

同日夕方から、前日の武者小路教授の基調講演を受ける形で、国際環境情報センターの星野智子氏の指導の下、環境問題について、学生によるプレゼンテーションとグループ・ディスカッションが行われた。

このセミナーでは、ホスト国の学生が、メインテーマについての研究結果をプレゼンテーションすることになっており、韓国プログラムでは崇実大学校の学生が、大阪プログラムでは本学の学生が、環境問題についてプレゼンテーションを行った。

本学の学生は、①リサイクルを活用した持続可能な社会モデルとしての江戸時代の研究、②日本のプロ野球・東北楽天イーグルス球団の活動などについて紹介した。

最後に、現在の環境問題についての解決策を、各国2名ずつ6名で1グループに分かれてディスカッションし、それぞれのグループが未来へ向けた提案を発表した。

活発な議論を展開 未来へ向けた提言を発表

田中誠太八尾市長と懇談（8月28日）

いずれのプレゼンテーション及び環境問題解決の提案も、学生の問題意識は鋭く、討論を経て、より深い洞察に満ちた提言へと結実していた。

28日には、本学の藤本和貴夫学長をはじめ7名の学生代表及び関係者が、田中誠太八尾市長を表敬訪問し、午後からは各国の料理づくりにチャレンジする楽しいひとときを過ごし、翌29日には、全スケジュールを終了し、中国・韓国の学生たちは帰路についた。

このセミナーを通じて、ボランティアとしてセミナーを支えた本学学生スタッフも含めた学生たちの心が国境を超えて一つになることができた。将来、彼らが多方面で国際的なネットワークをつくり上げていく礎となったと評価できるだろう。

特集

世界との連携が、未来を支える。

友情の絆を育んだ学生たち

忘れられない夏の思い出になりました。

末澤美佳さん（大阪経済法科大学　法学部3年生）

今回の三カ国セミナーでは、各国の学生から“環境問題”について発表があり、様々な角度から見た、環境問題を学ぶことができました。中国や韓国の学生の発表は、大きなテーマをそれぞれが分担し、身近にある問題に焦点を当てた、とても興味深い内容のものでした。また、私たち、大阪経済法科大学の発表も、どこにも負けないチームワークとユーモアのある内容であったと思います。

それぞれの国の学生によって、感じ方は違うかもしれませんが、私にとっては忘れられない夏の思い出になりました。

手作りの陶器を手に記念撮影
写真中央が末澤さん

9日間のプログラムで、たくさんのことを学びました。

Jeon In Seonさん（韓国／崇実大学校　法学部4年生）

韓国プログラムの初日、各国の学生たちに会うまでは、言葉は通じるだろうか、韓国のことは好きだろうかと色々と不安を抱えていましたが、実際に会ってみると、私たち韓国の大学生と何ら変わらない、好奇心旺盛で活発な学生たちの姿がありました。特にショッピングが好きな、復旦大学の女子学生たちと一日中、明洞（ソウルの中心街）で買い物をしたことが印象に残っています。

また、日本のプログラムでは、京都の寺院や神戸の「人と防災未来センター」見学など、充実したプログラムが準備され、貴重な経験をすることができました。

今回のプログラムでは、異文化を知り、また同世代の異国の学生たちが何を考えているのかを知るいい機会になりました。

前列右端が魏さん、2列目左から2人目Jeonさん、3人目末澤さん

学生同士の交流が、アジアの未来を担うと確信しています。

魏　沁茹さん（中国／復旦大学　国際政治学部3年生）

アジアで中心的な役割を担う、中国、日本、韓国の三カ国で交流できる貴重な機会と考え、今回のセミナーに参加しました。また、アジアの今後の発展を考えたときに、アジアの未来を担う学生たちが、お互いの考えを知り、交流する意義はとても大きいと思います。このセミナーでは、韓国や日本の学生たちと打ち解けた話をすることができ、自分にとって本当によい経験になったと思います。

私自身は、日本のマンガを読んで日本が好きになり、日本に行きたいと思うようになりました。大学卒業後は、日本の大学院に留学して、日本の歴史と政治を勉強したいと考えています。

本学囲碁部関西学生囲碁春季リーグ全勝優勝で、一部昇格

6月1・7・8日の三日間、関西学生囲碁連盟主催の春季二部リーグが開催され、本学囲碁部が、6戦全勝の好成績で優勝し、一部リーグ昇格の切符を手にした。

囲碁部の二部リーグ昇格は、2002年以来6年ぶり2度目となり、秋から始まる一部リーグでのさらなる活躍が期待される。

本学学生に守山警察署長から感謝状が贈呈

6月23日（月）、滋賀県警守山警察署長から、経済学部3年生・保積克哉さんに感謝状が贈呈された。

これは、5月27日にJR湖西線の上り普通電車内で発生した、滋賀県迷惑行為等防止条例違反事件（痴漢行為）の犯人を現場で取り押さえたとして、その勇気ある行動に対して贈られたものである。

保積さんは、現在、滋賀県の青少年キャンプ活動をサポートするボランティアなどにも積極的に参加しており、「同年代の人が困っているのを見過ごすことができなかった」と当時の心境を語った。

感謝状を受け取る保積さん

文化会系クラブによるイベント「文化博覧会」を開催

7月11日（金）・12日（土）の二日間、2008年度文化博覧会が、八尾市文化会館プリズムホールで開催された。

今年で2回目の開催となる文化博覧会は、文化会に所属するクラブが一堂に会し、日頃の練習成果の発表や各クラブ間の交流、また一般学生との交流を深めることを目的に開催された。

一日目は、昨年と同様、音楽系クラブによるライブイベントや、今年サークルから「部」へと昇格したストリートダンス部による、ダンスパフォーマンス、各クラブ責任者とダンス部とのコラボレーションダンスなどが行われ、会場内を熱気に包んでいた。

二日目も作品展示会や囲碁部、将棋部による対局、東洋哲学研究会の学術発表、ビンゴ大会など、多彩なイベントが催され、会場内は一日目に負けないくらいの盛り上がりを見せていた。

八尾市吹奏楽フェスティバルに本学吹奏楽部が出演

7月20日（日）、第21回八尾市吹奏楽フェスティバルが、八尾市文化会館プリズムホールで開催され、本学吹奏楽部が演奏を披露した。

この吹奏楽フェスティバルは、第21回八尾市吹奏楽フェスティバル実行委員会・八尾市・財団法人八尾市文化振興事業団の主催のもと、毎年夏に開催されているもので、八尾市内の中学校、高校、大学、社会人バンドが一堂に会して演奏を繰り広げる、地元八尾市で歴史ある夏の一大イベントとなっている。

速報 2008年度 法科大学院・大学院／公務員／各種資格・検定試験合格者速報

（2008年10月15日現在）

【法科大学院・大学院】
- 関西学院大学法科大学院（既修者1名・未修者2名）
- 関西大学法科大学院（未修者2名）
- 近畿大学法科大学院（未修者1名）
- 甲南大学法科大学院（既修者1名・未修者1名）
- 龍谷大学法科大学院（未修者1名）
- 東北学院大学法科大学院(未修者1名)
- 兵庫県立大学大学院会計研究科会計専門職専攻（修士課程）1名
- 甲南大学大学院ビジネス研究科会計専攻（修士課程）1名

【公務員】
- 国家公務員Ⅱ種（徳島労働局・1名）
- 大阪市消防局（1名）
- 東京消防庁（2名）
- 兵庫県三木市職員採用試験（消防職・1名）
- 京都府警（1名）
- 奈良県警（2名）
- 滋賀県警（1名）
- 徳島県警（1名）
- 香川県警（1名）
- 自衛隊（幹部候補生・1名）

【各種資格・検定試験】
- 日商簿記検定試験1級（1名）
- 日商簿記検定試験2級（3名）
- ビジネス実務法務検定試験2級（4名）
- ファイナンシャル・プランニング技能検定試験2級（2名）
- 初級システムアドミニストレータ（25名）
- CIWファンデーション（12名）
- 福祉住環境コーディネーター検定試験3級（11名）
- 秘書技能検定試験1級（1名）
- 秘書技能検定試験2級（15名）
- 日本漢字能力検定試験2級（7名）　他

合格者総数:287名

2008年度前期課外活動戦績

クラブ名	大会名	戦績
卓球部	関西学生卓球新人大会	【団体】男子:3位、女子:優勝 【個人】 男子:ベスト8　佐々木健次郎（経済2年） 女子:優勝　下之段志保（経済2年） 【シングルス】男子:ベスト8　寺戸一樹（経済3年）
	関西学生卓球選手権大会	男子:4勝3敗　4位（8チーム中） 女子:4勝3敗　4位（8チーム中）
	関西学生卓球連盟男子・女子一部春季リーグ	男子・女子:ベスト16
	全日本大学対抗卓球選手権大会	
テコンドー部	全日本テコンドー選手権大会（西日本地区大会）	男子ミドル級　中澤度栄（経済1年） 女子バンタム級3位　松井綾菜（経済1年）
	ジャパンW.A.T.A.オープン選手権大会	男子ウェルター級3位　木挽隆宏（経済4年） 女子バンタム級3位　松井綾菜（経済1年）
	世界学生テコンドー選手権大会（選考会）	女子フライ級優勝　木下菜摘（経済2年）
ソフトボール部	関西学生ソフトボール春季リーグ 西日本大学ソフトボール選手権大会	1部リーグ　2勝3敗　4位（6チーム中） ベスト16
サッカー部	関西学生サッカー連盟春季リーグ	2部リーグBブロック　2勝7敗　9位（10チーム中）
空手道部	関西学生空手道個人選手権大会	男子:ベスト8　大場隆弥（法3年）※優秀選手賞 女子:3位　梅木香奈（法2年）
	西日本大学空手道選手権大会	男子組手:ベスト16　女子組手:ベスト8
バレーボール部	関西大学バレーボール連盟春季リーグ	男子:2部リーグ　4勝3敗　4位（8チーム中） 女子:6部リーグ　1勝5敗　6位
硬式野球部	阪神大学野球連盟春季リーグ	3部リーグ　6勝6敗　4位（6チーム中）
軟式野球部	西都大学野球連盟春季リーグ	2部リーグ　5勝4敗　4位（10チーム中）
バスケットボール部	西日本学生バスケットボール選手権大会	3回戦進出
バドミントン部	関西学生バドミントン連盟春季リーグ	6部リーグ　0勝4敗　5位（5チーム中）
サンボ部	全日本サンボ選手権大会	エスポワール57kg　優勝　島崎　大（経済1年） エスポワール62kg　3位　中谷紀之（法3年）

Keiho Times

今年も地域貢献の一環として、市民無料法律相談を開催

6月21日(土)、近鉄八尾駅前の八尾市文化会館プリズムホールで、八尾市民を対象とした市民無料法律相談が開催された。

今年で3回目の開催となる市民無料法律相談は、本学法学部と法学会の共催で行われた。また、この取組は、地域・社会に貢献するとともに、教員、学生が生きた法律問題に直面することで、本学法学教育と研究の発展に資することを目的に実施されてきた。

当日は、あいにくの雨模様にもかかわらず、多くの相談者が会場に訪れ、25件の相談(民事関係全般)が寄せられた。相談を担当した前田春樹弁護士(元大阪弁護士会副会長・前田春樹法律事務所)ら相談員は、本学教員は、一つひとつの相談に的確で丁寧なアドバイスを行った。また、相談に陪席した学生スタッフたちも、学校での講義では決して味わうことのできない貴重な経験をすることができた。

春学期末卒業式を挙行 20名の卒業生が社会へ巣立つ

9月24日(水)、2008年度春学期末卒業式が本学6500号教室で挙行され、20名(経済学部10名・法学部10名)の卒業生が、新たに社会へと巣立っていった。

式典では、冒頭、参席者全員で学歌「われらが白き学舎に」が斉唱された後、藤本和貴夫学長から卒業生一人ひとりに学位記が授与され、式辞が述べられた後、能塚正義経済学部長、岩村等法学部長から、卒業生に祝福の言葉が贈られた。その後、草野祐子(法学部)さんから卒業生を代表して挨拶が行われ、大学生活で支えとなってくれた両親、教職員、学友たちに感謝の意が述べられた。

卒業を迎えた20名の卒業生が、今後、厳しい社会の中で、本学で学んだことを礎に活躍されることを期待したい。

「大阪中学生サマーセミナー」を開催 大津事件を学ぶ

8月30日(土)・31日(日)の二日間にかけて、「平成20年度大阪中学生サマー・セミナー」(大学コンソーシアム大阪・南大阪地域大学コンソーシアム他主催)が開催され、本学担当講座に大阪府下14の中学校から15名の中学生が参加した。

今回、本学が担当する講座は、「なぜ警官は剣(サーベル)を抜いたか―大津事件・百年前のミステリー」(講師・岩村等法学部教授／法学部長)というテーマで開講され、1891(明治24)年5月、大津で遊覧中のロシア皇太子を警備中の警官が襲撃した事件(大津事件)について学習が行われた。

オープンキャンパス2008、盛況のうちに終了

高校生に熱く語る森永卓郎氏

オープンキャンパス2008が、7月末から9月にかけて計4回開催され、高校生、受験生をはじめ多くの参加者が本学を訪れた。今年度のオープンキャンパスは、テレビのコメンテーターなどで活躍している人気経済アナリストの森永卓郎氏を講師に迎え、『経済学でシアワセになる方法』と題した特別講演会や毎回好評を得ている在学生がキャンパス内を案内するキャンパスツアー、入学試験対策講座、おもしろ授業体験、クラブエキビジョン（公開練習）など、多彩なプログラムで行われた。

2008年度 地域IT講習会を実施

7月27日（日）・8月31日（日）の二日間、6号館総合情報教育棟で、地域IT講習会が開催された。

講習会では、身近で役立つIT活用をテーマに、「ネットで簡単！旅行計画」や「パソコンde健康管理」など、バラエティに富んだコースが準備された。

二日間、計4コースで実施された今回の講習会には、地域（八尾市・東大阪市）の方を中心に、多くの方に参加していただき、好評を得ることができた。

教職講演会を開催

7月9日（水）、東大阪市立楠根小学校で教諭を勤める日高崇史氏（2003年3月・経済学部卒業）を講師に迎え、教員志望学生を対象にした講演会「教師という職業について」が開催された。

講演では、教員を志した動機や教育現場での体験談、教師になるための心構えなどについて話が行われ、「いろんな子ども、いろんな大人がいるからこそ、いろんなことが学べて楽しい」という自身の教員としての基本スタンスを学生たちに語りかけていた。教職課程履修学生を中心に集まった学生も、講師の熱心な話に真剣な表情で耳を傾けていた。

「大林素子杯」開催 15チームが熱戦を繰り広げる

中学生に指導する大林素子さん

8月31日（日）、本学総合体育館で、「第1回大林素子杯in八尾CUP」が開催された。

八尾市内にある中学校の女子バレーボール部15チームが参加した。当日は、大林素子さんによるバレーボール教室も行われ、真剣な表情で指導を受ける中学生の姿が印象的であった。

大会決勝は、高安中学校が龍華中学校との接戦を見事制し、栄えある初代の優勝校に輝いた。

●平成20年度科学研究費補助金及び競争的研究費採択一覧●

今年度、本学教員・研究員3名が、新たに科学研究費補助金及び競争的研究費の対象者として採択されています。これにより、計10名の教員・研究員に、科学研究費補助金等の研究助成金が交付されることになりました。

今後、本学教育・研究活動面でのより一層の発展が期待されます。

名称／採択機関	研究年度	研究代表者	研究テーマ
戦略的情報通信研究開発制度（SCOPE）／総務省	2008～2010	呉　志賢 教養部准教授 ※研究分担者	潜在的な嗜好に基づくユーザ誘導とコンテンツ流通システムの安定化に関する研究開発
科学研究費補助金／文部科学省・日本学術振興会	2008～2010	華　立 教養部教授	前近代東アジア国際商業の担い手と広域ネットワークの形成
	2008～2011	岩見真希 教養部准教授	安全で効率的な新しい多変数公開鍵暗号の設計に関する研究
	2007～2009	伍　躍 教養部教授	前近代中国における売官制度の基礎的研究
	2007～2008	澤野義一 法学部教授	日本のジュネーブ条約追加議定書の批准と国内法的課題
	2007～2009	前鶴政和 経済学部准教授	不確実性下における寡占企業の排出削減投資に対する環境政策の効果について
	2007～2009	早尾貴紀 アジア太平洋研究センター客員研究員	ユダヤ思想史における民族と国家;バイナショナリズム運動の挫折をめぐって
	2006～2008	村下　博 法学部教授	非正規滞在外国人と在留特別許可制度戦後入管体制の形成と課題
	2006～2008	藤崎亜由子 教養部講師	虫をめぐる現代日本の自然観・生命観の発達的研究
	2006～2008	磯田一雄 アジア研究所客員教授	植民地期東アジアの近代化と教育の展開ー1930年代～1950年代ー

秋学期行事日程

行事	日時／場所	
いきいき八尾環境フェスティバル2008	10月25日（土）／八尾市文化会館プリズムホール	体験コーナー:どんぐりの「らせんゴマ」 映画「アース」上映／朗読劇「キンタイくんのぼうけん」など
	10月26日（日）／本学キャンパス	和太鼓演奏、展示・体験教室、フリーマーケット、ふれあい池でのニッポンバラタナゴ保護活動など
第37回　経法祭「エボルヴ（evolve）ー進化するー」	11月7日（金）／本学キャンパス	【前夜祭】江州・河内音頭
	11月8日（土）／本学キャンパス	【本　祭】音楽系クラブライブ、ビンゴ大会、展示会、学術講演会、少年サッカー大会など
	11月9日（日）／本学キャンパス	【本　祭】メインライブ「キマグレン」、アームレスリング・クイズ大会、女装コンテストなど
2008年度法学部公開シンポジウム	11月20日（木）／八尾市文化会館プリズムホール	テーマ『あらためて裁判員制度を考える』 基調報告:指宿　信（立命館大学法科大学院教授） 【講演者】伊賀興一（弁護士）／山口健一（弁護士、本学法学部客員教授）

2007年度大学決算・事業報告

2007年度大学決算が2008年5月26日の理事会で承認されました。「2007年度大学決算書」に記載のとおり、学生生徒等納付金収入38億7千万円、手数料収入6千万円等、収入合計は63億3千万円です。これらは全て、教育研究活動、学生サービス及び施設・設備の充実等のために活用しました。

2007年度は、教育研究水準の一層の向上を図るとともに、予算の効率的な執行と人件費の抑制や経費の節約に努め、支出額は、人件費19億円、教育研究経費7億8千万円、管理経費3億7千万円、施設・設備関係支出1億2千万円等となりました。

2007年度 大学事業の概要

建学の理念に基づく大学の使命に沿って、経済学・法学の専門教育を中核とする、特色ある学士課程教育の充実に取り組みました。

法学部では、法曹コースをはじめとする4つのコースを整備・充実しました。そして、法曹・公務員の特別クラスを設置して、個別指導体制を強化し、法科大学院合格者延べ23名、公務員延べ15名、行政書士4名、社会保険労務士等の合格者を輩出しました。また、裁判所見学、NPO法人等での実務体験、八尾市民無料法律相談の開催、法学部学生研究発表大会、法学部公開シンポジウムの開催等、多様な教育プログラムを実施しています。

経済学部では、ITキャリアコース・会計ファイナンスコースを新規に設置するとともに、コース制の改編・充実を図りました。

そして、より幅広い専門教育を法学部等との連携の下に実施し、公認会計士試験の現役合格、公務員試験合格者9名、簿記検定試験合格者56名等を輩出しました。そして、「地域フィールドスタディー」「経営実践」や八尾税務署との協力による経済学部租税教室の開催等、体験型・参加型プログラム等を積極的に実施しています。

また、4年間一貫した体系的かつ総合的な学士課程教育の充実に向けて、教養部では、各学部との連携を強化し、学部の教育目的・目標と合致した共通科目のカリキュラムを編成しました。

全教員が、より教育効果の高い魅力ある授業を実践し、本学における教育の質をさらに向上させるために、授業改善を初めとする諸教育施策の企画・開発等の支援を目的として、大学教育開発支援センターを開設しました。

新入生の大学教育へのスムーズな適応を促すため、初年次教育プログラムを整備しました。導入教育の中心を担う科目となる大学演習を、担任・副担任として、チューター（教員）とサブチューター（職員）の二人で1年を通じて担当し、きめ細かい教育指導を行っています。

エクステンションセンターと各学部・教養部が連携し、本学独自の専門職養成プログラムとして特修講座をさらに発展させました

資格講座を幅広く開講し、多様な将来の希望進路や学ぶ意欲に対応し、4つの特修講座をはじめ、15の資格講座・25のコースを開講しました。また、時間割を調整し、講座が受講しやすくなるように工夫を行いました。そして、指導体制を二層強化し、難関試験、法科大学院・専門職大学院等の合格を初めとして、延べ844名の資格・検定試験等の合格者を輩出しました。

専門知識と国際性を同時に育む、特色ある国際教育を推進しました

インド・デリー大学との協定締結により、本学の国際ネットワークは、ロンドン大学、北京大学、トロント大学等、海外16ヶ国37大学・研究機関に拡大しました。これまでの国際交流事業の成果を基に、各学部・教養部の特色ある教育を推進するため、全学生が積極的に参加できる国際教育プログラムの充実を図っています。専門知識と国際性を育む国際教養副専攻を中心に国際教育を学士課程教育の中に位置づけ、英語圏や中国、韓国等海外へ留学できる体系的な制度の整備を推進しました。また、（財）中島記念国際交流財団の支援事業として「日中韓三カ国姉妹校学生セミナー」を実施しました。2007年度における、学生の海外派遣は、102名に上っています。

情報教育の充実・高度化を進め、情報環境の整備・IT活用の促進を図りました

情報副専攻の設置等に合わせ、マイクロソフトオフィススペシャリスト試験等に対応したCBT（コンピュータを利用した試験実施システム）センターを開設しました。

経済学部では、「経営管理論」のe-learning教材を開発する等、Web学習システム拡充を進めています。また、6号館教室のパソコン更新や教室の無線LAN化のエリアを拡充するとともに、学生ポータルサイト（Nice Portal）の運用を開始し、学外からの利用や携帯電話用のモバイルサイトの開設を行いました。

総合的なキャリア支援を充実させ、学生の希望進路の実現に向けた施策を強化しました

法学部・経済学部のコース制に対応して、学生個々人の希望進路の実現に向けて、キャリア教育を充実しました。企業や社会の求める人材育成への取組である厚生労働省認定の「YESプログラム」（コミュニケーション能力の育成と各種の資格取得）では23名が証明書を受領しました。

また、学習支援センターでは、キャリアカウンセラー、企業人事担当者、4年生就職内定者によるキャリア・就職相談を実施しました。「キャリア開発特別講座」を拡充・整備し、「キャリアゼミ」を実施し、上場企業への就職者が増加しています。2007年度の就職率は、97・9％となりました。

研究所の再編統合と研究環境の整備を進め、研究の活性化を図りました

経済研究所、法学研究所、総合科学研究所及び科学技術研究所について、長年にわたる成果を継承発展させるべく、新たに21世紀社会研究所及び地域総合研究所に再編統合することとし、その準備を推進しました。また、研究活動を支援し、研究環境の整備を進め、2007年度は、科学研究費補助金として9件合計13,520千円）が採択されています。

教育環境の整備と学生生活支援のため、施設・設備の一層の充実を行いました

ゼミ合宿、課外活動や国際交流事業など幅広い活用に向け阪南キャンパスの施設を整備しました。また、ルーズベルト大学記念館や文化会館の整備、1号館と2号館の間のウッドデッキ設置等により、学生の休憩・コミュニケーションの場の整備・充実を図っています。そして、国際部を本部棟から1号館1階へ、就職指導部を本部棟2階から1階へ移転し、学生サービスの向上に努めました。

また、キャンパスへのアクセスの利便性向上のため、スクールバスを増便し、運行の改善を図るとともに、学生用駐輪場の拡張・整備等を実施しました。

2008年度 教育後援会総会・父母懇談会を開催

6月15日(日)、2008年度教育後援会総会及び父母懇談会が、本学キャンパスで開催され、多くの父母・保護者が出席された。

午前10時から開催された総会では、常本光男教育後援会会長の挨拶に続き、教育後援会顧問の藤本和貴夫学長、伴井敬司校友会会長から挨拶が行われ、その後、2008年度役員(案)、2007年度収支決算書(案)、2008年度収支予算書(案)が提案され、審議の上、満場一致で承認された。総会の最後は、教育後援会会長に選任された山田知子新会長から、就任の挨拶が行われ「大学と教育後援会の連携をより一層深め、学生支援の充実を図っていきたい。」と決意が語られた。

総会終了後、講師に井口徹郎氏(㈱)ベネッセコーポーレーション高校・大学生支援事業開発部西日本大学営業課課長)を招き、「よりよい就職(キャリア)選択のために―大学時代に取り組むべきこと―」と題した講演会が開催され、学生が希望の進路を実現するための支援や心構えなどが述べられた。講演会終了後は、毎年恒例となったキャンパスランチ体験が実施され、出席者は吹奏楽部の演奏を聴きながら、楽しいひとときを過ごされた。

午後からは、各教室に分かれ父母懇談会(個別懇談やテーマ別相談)が実施され、修学・就職・学生生活・資格取得等様々な相談が担当教員に寄せられた。また、今年度初めての企画として、在学生が自らの体験談を語る「自分が目指すもの!~経法大の魅力~」も開催された。

2008年度 大阪経済法科大学教育後援会 収支予算書

2008年4月1日から2009年3月31日まで

◆収入の部 (単位:円)

項　目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備　考
1.教育後援会費	13564,000	14,168,000	△ 604,000	
2.受取利息	6,731	2,520	4,211	
小　計	13,570,731	14,170,520	△ 599,789	
前年度繰越金	8,389,450	8,197,248	192,202	
収入の部合計	21,960,181	22,367,768	△ 407,587	

◆支出の部

項　目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	備　考
1.学生福祉費				
(1)学習活動支援	700,000	700,000	0	資格取得支援教材購入等
(2)課外活動支援	1,400,000	2,600,000	△ 1,200,000	各クラブの備品購入等
(3)学生行事支援	1,300,000	1,300,000	0	経法祭・卒業祝賀会等
(4)奨学金事業支援	8,320,000	8,320,000	0	
2.記念品費	1,400,000	1,500,000	△ 100,000	入学記念品及び卒業記念品
3.総会開催費				
(1)通信費	350,000	350,000	0	総会案内状の郵送料等
(2)印刷製本費	300,000	300,000	0	総会案内状・封筒制作費
(3)その他諸費	500,000	500,000	0	
4.父母教育懇談会費	550,000	450,000	100,000	新入生父母教育懇談会及び父母懇談会の経費補助
5.役員会開催費	450,000	500,000	△ 50,000	役員会開催費用(年2回)
6.予備費	100,000	100,000	0	
小　計	15,370,000	16,620,000	△ 1,250,000	
次年度繰越金	6,590,181	5,747,768	842,413	
支出の部合計	21,960,181	22,367,768	△ 407,587	

2007年度 大阪経済法科大学教育後援会 収支決算書

2007年4月1日から2008年3月31日まで

◆収入の部 (単位:円)

項　目	予算額	決算額	差　異	備　考
1.教育後援会費	14,168,000	14,356,000	△ 188,000	
2.受取利息	2,520	6,731	△ 4,211	
小　計	14,170,520	14,362,731	△ 192,211	
前年度繰越金	8,197,248	8,197,248	0	
収入の部合計	22,367,768	22,559,979	△ 192,211	

◆支出の部

項　目	予算額	決算額	差　異	備　考
1.学生福祉費				
(1)学習活動支援	700,000	522,458	177,542	資格取得支援教材購入等
(2)課外活動支援	2,600,000	2,080,135	519,865	各クラブの備品購入等
(3)学生行事支援	1,300,000	1,000,000	300,000	経法祭等
(4)奨学金事業支援	8,320,000	7,520,000	800,000	
2.記念品費	1,500,000	1,299,250	200,750	入学記念品及び卒業記念品
3.総会開催費				
(1)通信費	350,000	311,605	38,395	総会案内状の郵送料等
(2)印刷製本費	300,000	335,370	△ 35,370	総会案内状・封筒制作費
(3)その他諸費	500,000	276,345	223,655	
4.父母教育懇談会費	450,000	502,072	△ 52,072	新入生父母教育懇談会及び父母懇談会の経費補助
5.役員会開催費	500,000	323,294	176,706	役員会開催費用(年2回)
6.予備費	100,000	0	100,000	
小　計	16,620,000	14,170,529	2,449,471	
次年度繰越金	5,747,768	8,389,450	△ 2,641,682	
支出の部合計	22,367,768	22,559,979	△ 192,211	

2007年度大学決算書

(2007年4月1日から2008年3月31日まで)

大阪経済法科大学　　単位:千円

収入の部 科　目	決算額
●学生生徒等納付金収入	3,767,287
授業料収入	3,559,255
入学金収入	192,200
実験実習料収入	11,772
その他納付金収入	4,060
手数料収入	55,773
補助金収入	5,837
●資産運用収入	133,496
事業収入	57,242
雑収入	15,189
その他の収入	113,821
退職給与引当特定資産からの繰入収入	57,492
建物等修繕引当特定資産からの繰入収入	39,454
●貸付金回収収入	16,875
●前年度繰越資金	2,178,629
収入の部合計	6,327,274

授業料収入等、在学生が納める納付金です。

「退職給与引当特定資産」や「建物等減価償却引当特定資産」等の資産を、安全性と効率性を勘案して運用しています。

貸与奨学金の契約に基づく返還収入です。

入試の検定料収入、各種証明書の発行手数料収入等です。

セミナーハウスの利用料や留学生宿舎の寮費収入等です。

建物等の修繕計画に基づき同特定資産を取り崩し、建物・構築物等の各種修繕を実施しています。

支出の部 科　目	決算額
人件費支出	1,903,266
●教育研究経費支出	783,663
消耗品費支出	57,927
●光熱水費支出	72,978
旅費交通費支出	30,443
奨学費支出	69,180
●学生厚生費支出	17,991
印刷製本費支出	40,310
修繕費支出	38,931
賃借料支出	22,896
報酬委託手数料支出	264,836
●学生活動補助金支出	5,723
その他教育研究経費支出	162,448
●管理経費支出	365,553
消耗品費支出	5,648
光熱水費支出	4,476
旅費交通費支出	13,473
印刷製本費支出	57,440
修繕費支出	2,322
賃借料支出	5,729
報酬委託手数料支出	87,957
その他管理経費支出	188,508
施設・設備関係支出	118,831
その他の支出	473,436
退職給与引当特定資産への繰入支出	116,024
●建物等減価償却引当特定資産への繰入支出	251,553
●建物等修繕引当特定資産への繰入支出	100,000
前期末リース未払金支払支出	5,859
次年度繰越資金	2,682,525
支出の部合計	6,327,274

教育研究活動に必要な諸経費です。

電気料や水道料等です。

ゼミ合宿・コンパ・論文製本費補助金、クラブへの援助褒賞、留学生との交流等の支出が含まれています。

学園祭や新入生歓迎行事等の学友会への援助金です。

教育研究経費支出以外の経費で、総務や人事、経理等、管理部門の経費や、学生募集経費等です。

建物及び構築物の当年度減価償却額と同額を積み立て、建物等の建替えや施設等の充実に活用されています。

長期修繕計画に基づき、修繕計画総経費の単年度負担額を計算し、積立てを行っています。

教員及び職員の「本俸、期末手当、その他手当並びに所定福利費等」です。

各種奨学金制度の充実により学生生活を支援しています。

資格試験講座の開講費用、スクールバスの運行費用等が含まれています。

学内の清掃やOAの保守メンテナンス料等が含まれています。

建物、教育研究用機器備品、図書の購入費等です。

「大学将来対策引当特定資産」として、大学の将来の充実・発展のために活用します。

2007年度特定資産期末残高	
退職給与引当特定資産	2,012,605
建物等減価償却引当特定資産	5,376,327
建物等修繕引当特定資産	760,106

※この2007年度大学決算書は、本学が予算管理目的のために設定している「大学の予算」の執行結果を勘定科目別に表示したものです。

父母懇談会、地方会場でも盛況に開催

6月29日(日)と7月6日(日)の二日間、東京・金沢・高松・那覇(6月29日)、名古屋・岡山・広島・高知・福岡(7月6日)の全国9会場で、地方父母懇談会が開催され、本学会場同様、各会場では教務・修学相談、就職相談、学生生活相談などの個別相談会が実施され、多くの父母・保護者が参加した。

また、高松・那覇・岡山・広島・高知の5会場は、校友会との共催で実施され、地元の就職事情や学生時代の体験談など、有意義な情報交換が行われた。

第10回大阪経済法科大学校友会総会開催
深まる友情の絆

7月19日(土)、ホテルニューオータニ大阪で、第10回大阪経済法科大学校友会総会が開催された。当日は、全国から多くの校友が参加し、教職員・在学生を合わせた170名が会場に集まった。

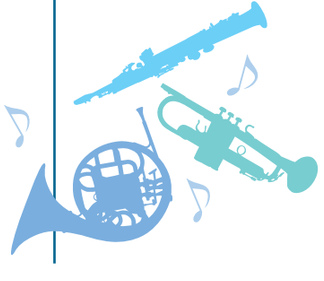
総会では、冒頭、伴井敬司校友会会長(法・1期生)から開会の挨拶が述べられた後、藤本和貴夫学長(校友会顧問)から挨拶を兼ねて、大学の近況報告が行われた。

続いて、「2007年事業報告及び収支決算書」、「2008年事業報告及び収支決算書」について、詳細な報告が行われた後、総会に参加した各支部代表から、各支部の活動状況について報告があった。また、今年5月18日に10番目の支部として設立された三重支部の中須秀治支部長(法・1期生)から、設立にいたる経緯を含めた挨拶が行われ、会場からは大きな拍手が送られていた。

総会終了後に開催された懇親会では、北垣義弘幹事(経済・7期生)・三浦江美幹事(法・32期生)の司会進行のもと、村下博校友会副会長(法学部教授)の開会挨拶に続き、山田知子教育後援会会長から祝辞が述べられた。

その後、中須秀治三重支部長による乾杯の音頭で懇親会が幕を明けると、旧友との久々の再会ということもあり、同級生の輪・先輩後輩の輪・卒業生と教員の輪など、あちらこちらで和やかな懇談の光景が見られた。

しばしの歓談の後、司会者から参加者への突撃インタビューや吹奏楽部による演奏が披露され、会場の雰囲気をより一層盛り上げてくれた。吹奏楽部による生演奏の心地よい余韻を残しつつ始まった抽選会では、液晶テレビやディナー食事券などの豪華賞品が多く準備され、当選者が出るたびに会場内は大きな歓声とため息に包まれた。懇親会の最後は恒例となった、卒業生、在校生、教職員全員で学歌「われらが白き学舎に」を熱唱し、和やかな雰囲気の中、懇親会が締め括られた。



国際交流通信(ワールドレポート)

ハワイ大学マノア校
カレッジレベルから
大学全体の
交流へと拡大

9月5日(金)、本学とハワイ大学マノア校との交流協定調印式が、ハワイ大学マノア校で執り行われた。今回の調印式には、藤本和貴夫学長と能塚正義学長補佐兼経済学部長が本学を代表して出席し、藤本学長とバージニア・ヒンショー・ハワイ大学マノア校学長が協定に調印した。

協定調印後握手する藤本和貴夫学長とバージニア・ヒンショー・ハワイ大学マノア校学長

本学とハワイ大学マノア校とは、1987年以来ウィリアム・S・リチャードソン法科大学、ハワイ・アジア・太平洋研究院などカレッジレベルで協定を結び、国際学術会議の共催、研究者の相互派遣、交換留学生の派遣、英語語学研修の実施など活発に交流を進めてきた。

これまでの交流の経緯を踏まえて、ハワイ大学マノア校からのカレッジレベルの協定を大学全体との協定に格上げしようとの提案があり、今回の交流協定の調印につながった。このたびの協定締結により、これまでの交流に加えて、同校のすべての学部・カレッジへの留学が可能となり、ハワイ大学からの留学生受入など両校の交流拡大が期待できる。

【ハワイ大学マノア校】
ハワイ大学の本部が置かれているマノア校は、世界約80カ国、アメリカ全50州から入学した学生数18000人(留学生約1400人)を誇るハワイ州で最大の大学。英語教授法(第二言語としての英語研究)では全米1位を誇り、語学、言語学、海洋研究、遺伝学などハワイの特徴を活かした学問も非常に盛んで、87の学部専攻、89の修士専攻、57の博士専攻プログラムがあり、どの専攻もアジア太平洋地域に焦点を置いている。ハワイ州の州都であるオアフ島のホノルルに位置している。

国際交流通信
【ワールドレポート】

中国・遼寧大学 創立60周年記念式典 本学代表が出席

9月15日(月)・16日(火)に、中国の遼寧大学(遼寧省瀋陽市)で開催された創立60周年記念式典に、本学を代表して高博学長補佐(国際交流委員会委員長)、裵龍国際部事務長の2名が出席した。

本学と遼寧大学は、1998年4月に協定を締結し、国際シンポジウムの共催、交換留学生ならびに研究者の相互交流など、様々な形で交流を深めてきた。今回の記念式典出席を機に、今後、両校の交流が一層発展することが期待できる。

中国・上海で 海外フィールドスタディーを実施

経済学部海外連携科目として実施されている「海外フィールドスタディー in 中国」が、去る9月7日(日)から16日(火)までの10日間、本学の協定校の復旦大学を拠点にして実施された。

このプログラムは、学生が実際に海外に出て様々なことを体験することにより、国際感覚を育成するという目的で実施されてきた短期プログラムで、今回は12名の学生が参加して実施された。

十日間の上海滞在期間中、学生たちは、復旦大学において、中国経済や文化に関する講義、中国語の授業、中国の伝統武術である太極拳レッスンのほか、アジア最大の小売市場と言われている義烏市場の見学、そして上海市内や杭州、五滝風景地の観光など、中国の文化や飛躍的発展を遂げた経済の実情を肌で実感することができた。

活気に溢れる上海市内(撮影者:呉紅敏本学講師)

トピックス

【スポーツ交流】
5月31日(日)
●本学・総合体育館
バレーボール、フットサル、バドミントンに総勢60名の留学生と日本人学生が参加。

【第3回異文化交流行事】
6月21日(土)
●京都・東山
35名の学生たちが知恩院から円山公園を経て清水寺、そして八坂神社へと戻るコースで京都の風情を感じ、互いの交流を深めた。

【姉妹校訪問】
8月10日(日)～13日(水)
●韓国・ソウル
教養部・森下泰行准教授が崇実大学校を訪問。剣道部監督の森下准教授は、崇実大学校剣道部とも交流した。

Career Up Station キャリアアップステーション

2010年卒 就職活動戦線の幕開け
～3年生の希望進路・就職に向けた活動が本格化～

売り手市場の転換

この数年間、景気の上昇が続き、大卒の求人倍率も順調に伸びていたが、2007年来の原油価格の高騰、小麦粉を始めとする食料や各原材料のコストアップ、アメリカ経済の後退などにより全体として下降局面を迎えている。

政府月例経済報告では、「景気は、弱まっている。先行きについては、当面、世界経済が減速するなかで、下向きの動きが続くとみられる。加えて、アメリカ・欧州における金融危機の深刻化や景気の一層の下振れ懸念、株式・為替市場の大幅な変動などから、景気の状況がさらに厳しいものとなるリスクが存在することに留意する必要がある」との判断を示し、雇用情勢についても「悪化しつつある」と同様に厳しい認識を示している。

現在の4年生の就職内定報告状況は、景気の上昇局面での雇用計画が反映されており、昨年度卒業生とほぼ同様に推移している。(主な就職内定状況参照)しかし、当初予定の採用人数を減らしたり、採用そのものを中止する企業(卸小売り業・サービス業等)も現れており、企業においても二極化が進行している。

企業環境の変化に伴う 雇用面での新たな動き

一方、企業戦略の新しい概念として「ダイバーシティ・マネージメント」(多様化への対応)が雇用面においても現れており、若年労働人口の絶対数の減少に伴い、女性の雇用を積極的に行う企業も増えつつある。企業の国際化・消費者ニーズの多様化に加え雇用面でもその処遇を含めて多様化が一層進展している。

3年生は事実上就職活動の本番に突入

このような状況のもとで、企業はより一層採用活動を早める傾向にあり、大手企業を中心にこの12月から会社説明会のエントリー受け付けが始まる予定である。

本学では、去る6月から3年生を対象とする就職支援の準備編(ガイダンス・セミナー等)を実施してきたが秋学期の10月からは、このエントリーに必要な自己分析と履歴書作成、業界研究のための実践編が本格的に始まる。毎年早期に就職内定を得ている学生は、この実践ガイダンスから欠かさず参加し、希望する進路の実現を果たしている。3年生の皆さんは、是非活用してもらいたい。

2008年度就職内定状況 (2008年9月末現在)

国家公務員Ⅱ種(1名)、警察官(6名)、
消防官(4名)、自衛官(1名)
JR西日本(株)、JR東日本(株)、(株)西日本シティ銀行、
(株)南都銀行、みずほインベスターズ証券(株)、
りそなホールディングス(株)、大東建託(株)、
大和ハウス工業(株)、住友不動産販売(株)、日本通運(株)、
(株)サカイ引越センター、はるやま商事(株)、
(株)サークルKサンクス、(株)コジマ、(株)上新電機、
(株)スギ薬局、セコム(株)、綜合警備保障(株)　他多数

2008 インターンシップ報告

企業での就労体験と職業選択の動機付けを目的とした、2008年度インターンシップが夏期休暇中に実施された。今回、野村證券で行われたインターンシップについて参加学生および企業担当者の声を掲載する。

証券会社でのインターンシップを通じて学んだこと

派遣先：野村證券㈱（8／11～8／15）
経済学部3年
木田　陽山さん

今回、私は「野村證券なんば支店」でインターンシップをさせていただきました。私が証券会社へのインターンシップを希望した理由は、大学のゼミなどの授業を通じて「株式」について学び、また、正課授業以外でファイナンシャル・プランニング2級の資格取得に向けた勉強もあり、『金融』というものに興味を持ち、それらを扱っている証券会社の業務を体験したいと考えたからです。

証券会社でインターンシップをするということは、インサイダーや個人情報など様々な問題があり、実際に仕事を体験するということは無く、講義や見学が中心でした。今回受講した講義の内容は、大学で勉強したものと同じでしたが、大学の教授と違い、実際に現場で働いている方から話を聞くことができたので、同じ内容でも飽きることなく聞くことができ、とても勉強になりました。また、NBS（野村ビジネスサービス株式会社）や大阪証券取引所、証券情報室など、色々な形で証券に関わっている会社も見学することができました。NBSは、野村證券のバックオフィスとして事務処理などを正確に遂行することで野村證券を支えており、自分の仕事が野村證券に直接影響するので、社員一人ひとりが自分の仕事に責任と誇りを持って、働いていることにとても感心しました。

最終日は、グループワークが行われ、お客様への提案書の作成やプレゼンテーションを行いました。グループディスカッションでは、自分の意見を認めてもらったり、人の意見を聞いたりして、その時間の中で話をまとめる難しさや様々な人の意見を聞ける楽しさを学べたと思います。

私は、今回のインターンシップを通じて、証券会社で働くことの大変さや証券に関わるNBSや大阪証券取引所、証券情報室など、色々な視点から証券や株式を知ることができました。今回の経験は、これからの就職活動をしていく中で、様々な観点から物事や自分を見直すいい機会になったと思います。5日間という短い期間でしたが担当者やなんば支店の方々、それに、就職課の皆さん、本当にありがとうございました。

平成20年度インターンシッププログラムについて

野村證券㈱　なんば支店
ウエルス・マネジメント課
白木 美菜子氏

このたび、野村證券株式会社なんば支店では「金融市場がどのように社会に貢献しているかを探る」、「『働く』ということが如何なるものかを探る」をテーマに、インターンシップを実施しました。

まず初日は、オリエンテーションの後、当社の紹介ビデオを視聴し、気付いた点・疑問点をグループに分かれて共有し、社員より疑問点の解消を行い、当社への理解を深めていただきました。また、証券会社の役割を学ぶため株式・債券・投資信託の基礎及び起業についての講義を行い、金融への理解を深めていただきました。初めて聞く内容に難しさを感じた学生も多かったようですが、皆熱心に取り組んでいました。

2日目以降は、毎日、日経新聞の読み合わせを行い、社員がポイントを解説し、その記事を元にその日の日経平均株価の動向とその理由を考察しました。学生も日を追うごとに読み込む力がついてきたと実感できるものでした。また、支店内の各部署を見学し、社員に業務内容について直接質問していただきました。さらに、大阪証券取引所と、支店のバックオフィス業務を行う系列会社を訪問し、金融市場の機能や証券会社の業務を実際に見ていただきました。

最終日には、5日間の集大成として、当社社員になったつもりでお客様への提案書をグループで討議・作成し、プレゼンテーション及び質疑応答を行いました。5日間という短い実習期間にもかかわらず、全グループが活発に議論を行い、良い意味で期待を裏切るような高いレベルの提案書が完成いたしました。

全期間を通して、多くの社員が講義を担当し、できるだけ様々な社員と接するようプログラムを構成しました。若手社員からは、就職活動の経験談、社会人になってからの心構えの変化、現在取り組んでいる業務等について話しました。年齢が近い社員の話は、非常に参考になったようでした。また、ベテランの社員からは、今後の日本経済の担い手としての期待を込めた『働く』意義に関する講義を行いました。また、グループワークを随所に取り入れたことにより、他大学の学生との交流を通じて様々な気付きを得られた学生も多く見受けられました。この機会を自分のために活かそうという姿勢で明るく積極的に取り組む学生が多く、それぞれが自分なりに経済についての理解を深めたり、『働く』ことについて考えたりしていたようです。

最後になりましたが、我々自身も全員が入社当時のことを思い出し、『働く』ことに関して再考する貴重な機会をいただきました。参加していただいた学生の皆様、また、ご協力いただきました就職課の皆様に厚く御礼申し上げます。

本当にありがとうございました。

主なインターンシップ派遣先（2008年度）

2008年サミット財務大臣会議、
大阪府庁、八尾市役所、
東大阪市役所、摂津市役所、
㈱りそな銀行、日興コーディアル証券㈱、
山口健一法律事務所、小澤司法書士事務所、
川崎和幸税理士事務所、
他多数

『キャリア開発特別講座』で夏の合宿を実施

今年4月に竣工した本学阪南キャンパスにおいて、8月9日（土）～10日（日）の1泊2日の日程で、『キャリア開発特別講座』合宿が行われた。

1日目は、講師の指導により、面接試験のトレーニングの一環として、①自己PR（自己分析をして、自分のアピールポイントをピックアップ）②学生生活について（大学生活をふり返る）③志望動機（企業研究）などについて、実践的な履歴書の書き方講習と添削指導が行われた。

夕食後の懇親会では、4年生の先輩たちと講師スタッフの就職活動体験談が熱く語られ、受講生は、貴重なアドバイスに熱心に耳を傾けていた。

2日目には、グループディスカッション・集団面接・個人面接などについて実践的な模擬面接指導が行われ、真剣な眼差しでメモを取る学生たちの姿が見られた。

今回、2日間という限られた時間ではあったが、履歴書作成、面接について徹底した個別指導が行われ、受講生の自信につながった。

元気いっぱい！
躍動する
経法生

大学での出会いと学びが、私を成長させてくれました。

岡本 香菜子さん

法学部・4年生

南都銀行㈱内定

人との出会いと経験で、たくさんのことを学び成長

大学生活では、吹奏楽部での課外活動が、自分の中で一番の思い出として残っています。特に、音楽系クラブの学生たちが主体となり開催している音楽祭や学外でのコンサートなどで、たくさんの友人やイベント関係者と出会い、一緒に企画を考え、打合せをしていく過程を通じて、大学に入学する前とは比べものにならないくらい人との接し方やものの見方・考え方が成長しました。

また、吹奏楽部の部長という立場から、部員や他のクラブと接することで、互いに理解し合うことの難しさや人によって考え方が違うということを直接肌で感じ、本当に貴重な経験をすることができました。

いま4年間という大学生活を振り返ると、全てのことを自分一人ではなく、周囲とともに一緒に学んで来たんだと強く感じています。

お客様から信頼される銀行員に

就職活動では、自分のアピールポイントを探すのに一番苦労しました。自分では、自分のことを知っているつもりでいたのですが、いざ自分のアピールポイントを考えてみたときに、なかなか見つけることができませんでした。いろんな本なども見たのですが、本に書かれていることを参考にしても仕方ないと思い、吹奏楽部で得た経験など、自分がいま自信を持って言えることをそのまま相手に伝えようと考えました。南都銀行に採用が内定したのも、そのように考えたのが良かったのかもしれません。

いよいよ来春からは、新たな人生の第一歩を踏み出すことになります。お客様一人ひとりとの関係・出会いを大切にし、一日も早く、周りから信頼される銀行員になりたいと思います。

積極的なチャレンジが、自己実現への第一歩

いまの私があるのは、大学の友人や仲間、先生方との出会いがあったからだと実感しています。目一杯好きに活動する場があったからこそ、そう感じることができたと思います。

いま、自分がやりたいこと、やってみたいことを行動に移すことで、それがいつか自分自身の経験になり、成長につながるはずです。諦めることは簡単ですが、やり通すことは本当に難しいと思います。経法大の学生だからこそ、できることがあります。何事も前向きな気持ちでチャレンジし、自分の手で、自分の夢を掴み取ってください。

編集後記

本学では今年度、環境保全活動の一環として、「河内木綿」の栽培を行っています。今回の取り組みは、河内木綿の復活にむけて普及活動をしている、八尾市立歴史民俗資料館の協力により実現したものです。

5月に300鉢分の綿の種をまき、6月半ばに苗を定植しました。9月中旬から収穫された真っ白な綿は、種取り、綿打ち、糸紡ぎ、機織りという手順で、一枚の布になる予定です。